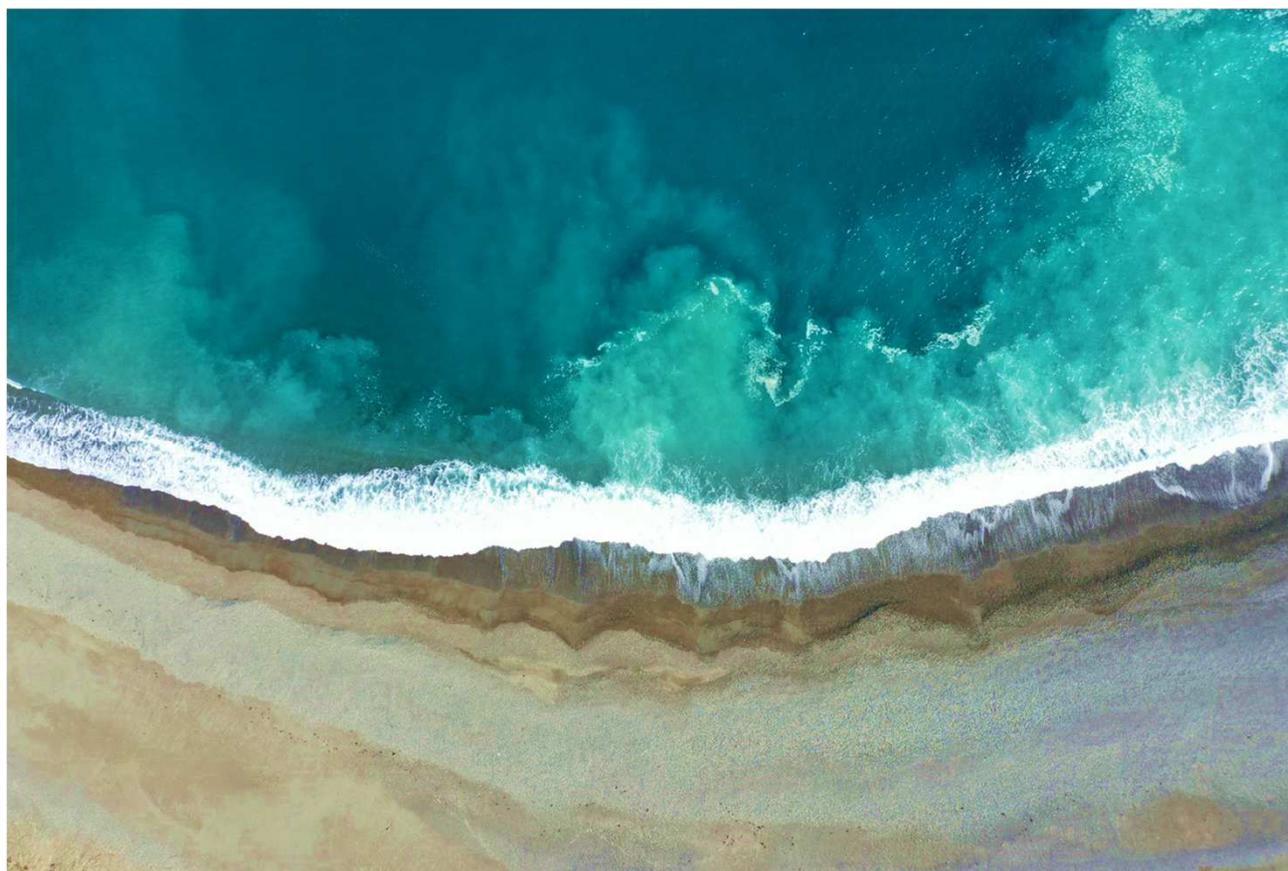


エコアクション21
環境経営レポート

令和 1年度
(活動期間：令和 1年 8月 ～ 令和 2年 7月)



波打ち際（高知県四万十市下田）



エコアクション21
認証番号0007526

いのこ 豚 ざ けん せつ 座 建 設 株 式 会 社
高知県四万十市古津賀2丁目6番地

目 次

1. 組織の概要
2. 対象範囲、レポートの対象期間及び発行日
3. 環境経営方針
4. 環境経営実施体制
5. 環境活動への取組の全体概要
6. 環境経営目標
7. 環境経営目標（原単位 売上百万円当り）
8. 環境活動計画
9. 環境経営目標の達成状況
10. 環境経営目標の達成状況（原単位 売上百万円当り）
11. 環境活動計画の取組結果とその評価
12. 次年度の環境経営目標
13. 次年度の環境経営目標（原単位 売上百万円当り）
14. 次年度の環境活動計画の取組内容
15. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無
16. 代表者による全体評価と見直しの結果

発行日：令和 2 年 12 月 8 日

発行責任者：環境管理責任者 三吉 規文

次回発行予定：令和 3 年 12 月 頃

1. 組織の概要

【事業所名】 豚座建設株式会社

【代表者氏名】 代表取締役 佐田憲昭

【所在地】

本社： 高知県四万十市古津賀2丁目6番地

具同倉庫： 高知県四万十市具同7388番地13

【環境管理責任者氏名及び担当者連絡先】

環境管理責任者氏名： 総務部長 三吉規文
連絡先担当者： // //
連絡先 TEL： 0880-34-6031
FAX： 0880-34-2850
E-Mail： inoko3@poppy.ocn.ne.jp

【事業活動の内容についての簡単な記述】

○建設業（主に土木・建築等の工事の施工）

建設業許可番号	特定建設業（高知県知事許可） （特-30）第000752号	一般建設業（高知県知事許可） （般-30）第000752号
許可年月日	平成30年 9月30日	平成30年 9月30日
建設業の種類	土木工事業 建築工事業 とび・土工工事業 舗装工事業 造園工事業 水道施設工事業 解体工事業	管工事業

○重機・自動車修理・整備業（使用済自動車の解体は行わない）

自動車分解整備事業許可番号 四国運輸局 四運証第80-349号

【事業規模】

設立年月日 昭和38年 3月12日

資本金 2,000万円

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和 1年度
完成工事高（百万円）	1,398	1,616	1,193	1,443	2,204
従業員数（名）	58	59	60	62	62
本社敷地面積（㎡）	13,320	13,320	13,320	13,320	13,320
〃 延床面積（㎡）	2,133	2,133	2,133	2,133	2,133
具同倉庫敷地面積（㎡）	1,593	1,593	1,593	1,593	1,593
〃 延床面積（㎡）	490	490	490	490	490

各年度の役職員数は、各年 7月末日現在

会計年度 8月 ～ 7月

2. 対象範囲、レポートの対象期間及び発行日

【対象範囲（認証・登録範囲）】

豚座建設株式会社 全社

本 社： 高知県四万十市古津賀2丁目6番地

具同倉庫： 高知県四万十市具同7388番地13

対象事業： 土木工事業、建築工事業、とび・土工工事業、舗装工事業、
造園工事業、水道施設工事業、管工事業、解体工事業、重機・自動車修理業

【レポートの対象期間】

令和 1年 8月～令和 2年 7月

【環境活動レポートの発行日】

令和 2年 12月 8日

【作成責任者】

環境管理責任者

三吉規文

3. 環境経営方針

〔環境理念〕

豚座建設株式会社は、「より高度な技術、創意工夫をもって地球環境に貢献する。」という理念に基づき、次のとおり環境経営方針を定め、これを策定します。

〔環境経営方針〕

近年、私たちの日常生活においては快適な生活を送る事が出来るように、便利な道具・食糧品が数多く溢れています。

その代償として多量のエネルギー・資源が消費され、また多量の廃棄物を生み出し大量のCO₂が排出され、近年みられる気候変動・生物生態系の異常など、地球環境に多大な負荷を与えています。

この重要課題に対応し、人類の目標とする「低炭素社会」「循環型社会」「自然共生社会」を目指し、私達は事業活動における環境負荷の低減を図り、以下の取り組みを含め、自主的・積極的に環境経営活動に取り組み、継続的改善による環境経営を推進していきます。

1. 事業活動に適用される環境関連法令、規則、協定等を遵守します。
2. 当社の環境マネジメントシステムを継続的に改善し、環境保全活動を展開します。
3. 次の項目を重点活動として、事業活動の環境負荷の低減を推進します。
 - (1) 建設工事から生じる環境への影響を把握し、環境に配慮した施工の実施、資機材の利用を促進します。
 - (2) 電気、燃料等のエネルギーの使用量を低減し、CO₂削減を行います。
 - (3) 廃棄物の再資源化を推進し、排出量を削減します。
 - (4) 水の使用量を低減します。
 - (5) 化学物質を適正管理します。
 - (6) 地域社会における環境保全活動に積極的に参加します。
 - (7) 環境意識の改善を図り、グリーン購入及びエコドライブを実施します。
 - (8) 建設現場での汚濁水流出を防止し、四万十川の水環境に配慮します。
4. この環境経営方針は、監督会・朝礼・ミーティング等を活用して、全従業員に周知させるとともに社内教育を実施し、環境保全活動の重要性を啓発します。また、当社はこの方針を一般に開示します。
5. 環境経営レポートを作成し、外部に公表します。

平成 24 年 11 月 15 日

(令和 1 年 10 月 24 日 一部改定)

豚座建設株式会社

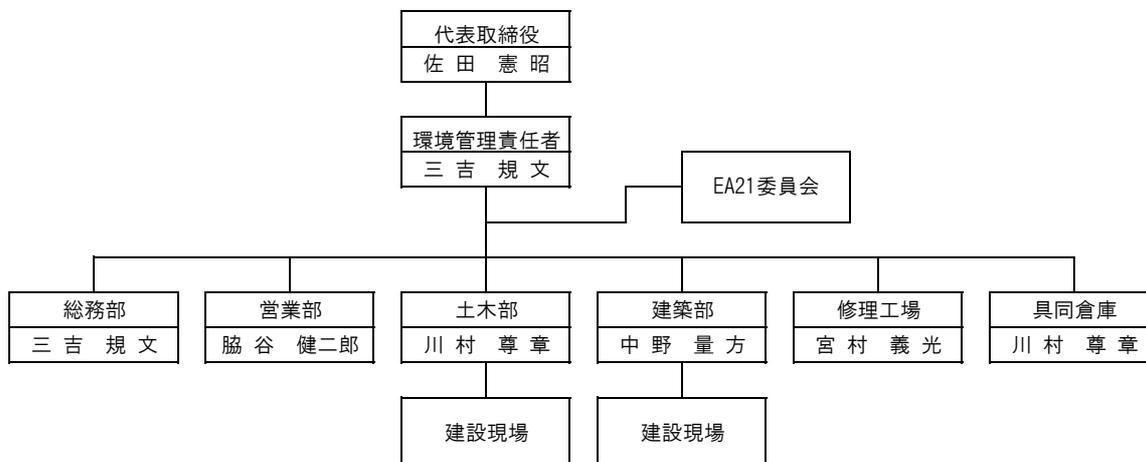
代表取締役

佐田 貴昭



4. 環境経営実施体制

1. 組織表



2. 役割・責任・権限表

	役割・責任・権限
代表取締役	<ul style="list-style-type: none"> 環境経営に関する統括責任 環境経営方針の策定・見直し及び全従業員へ周知 環境管理責任者及び部門の責任者の任命 環境経営システムを適切に実行するために必要な「資源」の提供 環境経営目標、環境経営計画、環境経営実施体制の承認 環境への取組の評価・見直しを実施し、必要な指示を行う
環境管理責任者	<ul style="list-style-type: none"> 環境経営システムの構築、運用、管理 環境経営目標、環境活動計画、環境経営実施体制の確認 環境関連法規等の取りまとめ及び遵守状況の承認 環境経営目標の達成状況の把握、分析 環境経営活動の取組結果を代表取締役へ報告 環境経営レポートの作成、公表
EA21委員会	<ul style="list-style-type: none"> 委員会の開催 環境管理責任者の役割・業務遂行の補助 環境負荷の自己チェック表及び環境への取組の自己チェック表の作成 環境関連法規等の取りまとめ及び遵守状況の把握 環境経営目標、環境活動計画、環境経営実施体制原案の作成 環境関連の外部コミュニケーション窓口
部門の責任者	<ul style="list-style-type: none"> 環境経営方針の理解 環境経営方針の部門内への周知 環境経営目標及び環境経営活動の理解、実施 部門内における環境経営システムの実施 環境関連法規等の遵守 部門内の従業員に対する教育訓練の実施
従業員	<ul style="list-style-type: none"> 環境経営方針の理解 環境関連法規等の遵守 環境経営目標及び経営活動計画の理解、実施 環境経営への積極的な取組

5. 環境活動への取組の全体概要

当社は、「2017年版エコアクション21ガイドライン」をもとに、環境負荷の自己チェックを行い環境経営目標の達成状況を評価し、改善に取り組んでいます。

<全体概況>

二酸化炭素（CO₂）排出量は、目標値を約2割下回り目標を達成できました。また令和2年3月には、1つの建設現場において排出される二酸化炭素のうち、17t-CO₂のカーボン・オフセットを実施しました。

電力使用量については目標を達成できませんでした。近年みられる夏の酷暑による熱中症、この時季の建設現場での作業はこのような危険にもさらされています。作業箇所近くに休憩所を設置し、常に冷房を稼働させていました。こまめに飲水・休憩はとってはいるが、体調が悪くなればすぐに駆け込んで休む、といった対策を実施したため、使用量増加の原因の1つとなりました。

原単位（売上百万円当り）で見ますと、二酸化炭素排出量、燃料使用量は目標値の約半分の実績といった良い実績、電力使用量も目標値の約8割の実績、目標達成となっています。

産業廃棄物の再資源化率は74.0%と、目標値より大幅にダウンしてしまいました。今年度終盤に、文化施設（建物）の解体工事を受注する事となり、ここから再資源化の困難な廃プラスチック、ガラスなどの廃棄物が排出された事が要因となっています。

今年度も、本社屋の南側と西側にゴーヤとアサガオを植え、緑のカーテンをつくりました。（※1）窓ガラスには遮熱飛散防止フィルムを貼り、ブラインドも遮熱効果のある物に更新しました。

環境美化活動について今年度は、ロードボランティア活動（10回）、近隣の清掃活動（4回）の参加・実施となっています。（※2）近隣の清掃活動は、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、数回分は実施が見送られたものがありました。

※1 緑のカーテン（ゴーヤ・アサガオ）



※2 ロードボランティアなど、清掃活動



<豚座建設株式会社 の物質フロー>（令和1年度）

電気使用量
89,606kWh

使用燃料
66,530L

原材料
10,243t

用水
1,264m³

豚座建設株式会社 事業活動

土木工事業
建築工事業
とび・土工工事業
舗装工事業
造園工事業
水道施設工事業
解体工事業
管工事業

CO₂排出量
212,429kg-CO₂

廃棄物
982.297t

排水
1,264m³

6. 環境経営目標

(1) 単年度目標

項目	単位	基準年 平成28年度 H28. 08-H29. 07	目標 令和 1年度 R01. 08-R02. 07	備考
CO ₂ 排出量	(kg-CO ₂)	271, 850	269, 132	基準年値より1%削減 ※1
燃料使用量	(ℓ)	90, 148	89, 247	基準年値より1%削減
電力使用量	(kWh)	80, 257	79, 454	基準年値より1%削減
LPガス使用量	(kg)	111	110	基準年値より1%削減
用水使用量	(m ³)	748	741	基準年値より1%削減
一般廃棄物排出量	(kg)	2, 750	2, 723	基準年値より1%削減
産業廃棄物排出量	(t)	740	733	基準年値より1%削減
産業廃棄物再資源化率	(%)	90. 5	99. 0	
環境美化活動	(回)	10	10	
環境負荷の少ない工事件数	(%)	100. 0	100. 0	※2

※1. 購入電力のCO₂排出量の算出については、電気事業者別のCO₂排出係数（平成30年12月27日公表）の四国電力株の調整後排出係数 0. 535 (kg-CO₂/kWh) を使用。

※2. 環境負荷の少ない工事件数

- 環境負荷の少ない材料（リサイクル材、県産品等）の使用
- 低騒音、排出ガス対策型重機の使用
- 型枠、工事看板への間伐材の使用
- 水質汚濁の防止 等

(2) 中長期目標

（平成28年 8月～平成29年 7月を基準年とする。）

項目	単位	平成28年度 H28. 08-H29. 07	令和 1年度 R01. 08-R02. 07	令和 2年度 R02. 08-R03. 07	令和 3年度 R03. 08-R04. 07	令和 4年度 R04. 08-R05. 07
		実績（基準年）	基準年値より1%削減	基準年値より2%削減	基準年値より3%削減	基準年値より4%削減
CO ₂ 排出量	(kg-CO ₂)	271, 850	269, 132	266, 413	263, 695	260, 976
燃料使用量	(ℓ)	90, 148	89, 247	88, 345	87, 444	86, 542
電力使用量	(kWh)	80, 257	79, 454	78, 652	77, 849	77, 047
LPガス使用量	(kg)	111	110	109	108	107
用水使用量	(m ³)	748	741	733	726	718
一般廃棄物排出量	(kg)	2, 750	2, 723	2, 695	2, 668	2, 640
産業廃棄物排出量	(t)	740	733	725	718	710
産業廃棄物再資源化率	(%)	90. 5	99. 0	99. 0	99. 0	99. 0
環境美化活動	(回)	10	10	10	10	10
環境負荷の少ない工事件数	(%)	100. 0	100. 0	100. 0	100. 0	100. 0

7. 環境経営目標（原単位 売上百万円当り）

（1）単年度目標

項目		基準年 平成28年度 H28. 08-H29. 07	目標 令和 1年度 R01. 08-R02. 07	備考
CO ₂ 排出量	(kg-CO ₂ /百万円)	168. 2	166. 5	基準年値より1%削減 ※1
燃料使用量	(ℓ/百万円)	55. 8	55. 2	基準年値より1%削減
電力使用量	(kWh/百万円)	49. 7	49. 2	基準年値より1%削減
LPガス使用量	(kg/百万円)	0. 069	0. 068	基準年値より1%削減
用水使用量	(m ³ /百万円)	0. 463	0. 458	基準年値より1%削減
一般廃棄物排出量	(kg/百万円)	1. 702	1. 685	基準年値より1%削減
産業廃棄物排出量	(t/百万円)	0. 458	0. 453	基準年値より1%削減
産業廃棄物再資源化率	(%)	90. 5	99. 0	
環境美化活動	(回)	10	10	
環境負荷の少ない工事件数	(%)	100. 0	100. 0	※2

※1. 購入電力のCO₂排出量の算出については、電気事業者別のCO₂排出係数（平成30年12月27日公表）の四国電力株の調整後排出係数 0. 535 (kg-CO₂/kWh) を使用。

※2. 環境負荷の少ない工事件数

- 環境負荷の少ない材料（リサイクル材、県産品等）の使用
- 低騒音、排出ガス対策型重機の使用
- 型枠、工事看板への間伐材の使用
- 水質汚濁の防止 等

（2）中長期目標

（平成28年 8月～平成29年 7月を基準年とする。）

項目	単位	平成28年度 H28. 08-H29. 07 実績（基準年）	令和 1年度 R01. 08-R02. 07 基準年値より1%削減	令和 2年度 R02. 08-R03. 07 基準年値より2%削減	令和 3年度 R03. 08-R04. 07 基準年値より3%削減	令和 4年度 R04. 08-R05. 07 基準年値より4%削減
CO ₂ 排出量	(kg-CO ₂ /百万円)	168. 2	166. 5	164. 9	163. 2	161. 5
燃料使用量	(ℓ/百万円)	55. 8	55. 2	54. 7	54. 1	53. 6
電力使用量	(kWh/百万円)	49. 7	49. 2	48. 7	48. 2	47. 7
LPガス使用量	(kg/百万円)	0. 069	0. 068	0. 067	0. 067	0. 066
用水使用量	(m ³ /百万円)	0. 463	0. 458	0. 454	0. 449	0. 444
一般廃棄物排出量	(kg/百万円)	1. 702	1. 685	1. 668	1. 651	1. 634
産業廃棄物排出量	(t/百万円)	0. 458	0. 453	0. 449	0. 444	0. 440
産業廃棄物再資源化率	(%)	90. 5	99. 0	99. 0	99. 0	99. 0
環境美化活動	(回)	10	10	10	10	10
環境負荷の少ない工事件数	(%)	100. 0	100. 0	100. 0	100. 0	100. 0

8. 環境活動計画

期間：令和1年8月～令和2年7月

項目		活動内容	担当者	期間
CO ₂ 排出量削減	燃料使用量削減	急発進、急加速の禁止	各部門長、各現場代理人	R01.08-R02.07
		不要なアイドリングの禁止	各部門長、各現場代理人	//
		重機による積込みを効率良く行う	各部門長、各現場代理人	//
		車両点検を定期的に行う（タイヤ空気圧、オイル等）	各部門長	//
		移動経路のプランニング、可能な場合は乗り合わせる等、効率的な移動・稼働をする	各部門長、各現場代理人	//
		長期退室時は消火を行い、不必要なストーブ稼働はしない	各部門長、各現場代理人	//
		換気時以外、ストーブ使用時は不必要にドアを開けっ放しにしない	各部門長、各現場代理人	//
	電力使用量削減	昼休み・退社時の消灯を徹底する	各部門長、各現場代理人	//
		長時間使用しないOA機器は電源を切り、不必要な機器はプラグを抜く	各部門長、各現場代理人	//
		エアコンの過度な温度設定は控える	各部門長、各現場代理人	//
		エアコンフィルターの清掃をする	各部門長、各現場代理人	//
		トイレ・会議室・倉庫・給湯室等の照明は使用時のみ点灯する	三吉	//
		冷房効果を上げるため、現場事務所上部に寒冷遮を張る	川村、中野、各現場代理人	//
		冷房効果を上げるため、エアコン室外機の設置箇所などを工夫する	川村、中野、各現場代理人	//
用水使用量削減 (排水量削減)		こまめに蛇口の栓を閉める	各部門長、各現場代理人	//
		漏水箇所を発見したら、早急に改善する	各部門長、各現場代理人	//
廃棄物削減	一般廃棄物	文書等で可能なものについては回覧をする	各部門長、各現場代理人	//
		両面コピー・両面印刷をする	各部門長、各現場代理人	//
		ミスプリント用紙で、可能なものについては裏面利用をする	各部門長、各現場代理人	//
		使用済み封筒等の再利用をする	各部門長、各現場代理人	//
		段ボール・古新聞の再利用をする	各部門長、各現場代理人	//
		資源ごみとして処理をする（学校の廃品回収への提供等）	各部門長、各現場代理人	//
	産業廃棄物	適正処理をし、可能なものは再使用・再生利用につながる処理をする	川村、中野、各現場代理人	//
		マニフェスト管理の徹底	各部門長	//
		作業ミスによる排出量の増加をさせない	川村、中野、各現場代理人	//
環境保全活動の実施		ロードボランティア活動（清掃活動）を実施する	三吉	//
		各種団体主催の清掃活動への参加	各部門長	//
		ゴミの散乱防止	各部門長、各現場代理人	//
		事務所・現場・修理工場周辺の清掃・整理整頓をする	各部門長、各現場代理人	//
化学物資の適正な取り扱い		適正な保管を行い、盗難に遭わないようにする	各部門長、各現場代理人	//
		適正に使用し、近隣等への漏洩防止をする	各部門長、各現場代理人	//
		P R T R制度対象物質の使用量、もしくは購入量の把握	各部門長、各現場代理人	//
環境負荷の少ない工事の実施		環境負荷の少ない材料（リサイクル材、県産品等）の使用	各部門長、各現場代理人	//
		低騒音、排出ガス対策型重機の使用	各部門長、各現場代理人	//
		型枠、工事看板への間伐材の使用	各部門長、各現場代理人	//
		水質汚濁の防止	川村、中野、各現場代理人	//
		チェーンソーの潤滑油は生分解性オイルを使用する	川村、各現場代理人	//

9. 環境経営目標の達成状況

(1) 本年度実績

項目	単位	基準年	目標	実績	達成率	評価
		平成28年度 H28. 08-H29. 07	令和 1年度 R01. 08-R02. 07	令和 1年度 R01. 08-R02. 07	(%) ※ 4	※ 5
CO ₂ 排出量		271, 850	269, 132	195, 429	72. 6	○ ※ 1
【内訳】 CO ₂ 排出量 カーボン・オフセット	(kg-CO ₂)			212, 429 -17, 000	78. 9	○ ※ 2
燃料使用量	(ℓ)	90, 148	89, 247	66, 530	74. 5	○
電力使用量	(kWh)	80, 257	79, 454	89, 606	112. 8	×
LPガス使用量	(kg)	111	110	119	108. 1	×
用水使用量	(m ³)	748	741	1, 264	170. 8	×
一般廃棄物排出量	(kg)	2, 750	2, 723	2, 389	87. 8	○
産業廃棄物排出量	(t)	740	733	969	132. 2	×
産業廃棄物再資源化率	(%)	90. 5	99. 0	74. 0	74. 7	×
環境美化活動	(回)	10	10	14	140. 0	○
環境負荷の少ない工事件数	(%)	100. 0	100. 0	100. 0	100. 0	○ ※ 3

※ 1. 購入電力のCO₂排出量の算出については、電気事業者別のCO₂排出係数（平成30年12月27日公表）の四国電力㈱の調整後排出係数 0. 535 (kg-CO₂/kWh) を使用。

※ 2. カーボン・オフセット制度の利用

※ 3. 環境負荷の少ない工事件数

- 環境負荷の少ない材料（リサイクル材、県産品等）の使用
- 低騒音、排出ガス対策型重機の使用
- 型枠、工事看板への間伐材の使用
- 水質汚濁の防止 等

* 4. 達成率 : 達成率 = (実績値/目標値) × 100 (%)

* 5. 評価 : 達成= ○、未達成= × で記載する。



<環境目標未達成理由>

仮設の落石防護柵

【電力使用量】 目標値を約13%オーバー

令和2年4月～7月にかけて、社屋内の複数の部屋について内装の大幅な改修工事を行い、電力が使用された。その間、該当する部署は、使用されていない他の部屋で業務を行っていた。この間だけで前年の月平均使用量を6%上回った。現場においては、夏場の使用量の増加が顕著に現れた。近年の酷暑による熱中症対策として、作業箇所近くに休憩所を設置し冷房をフル稼働させ、体調が悪くなればいつでも駆け込んで休める体制をとったため、この時期は例年の1. 3～2. 5倍の使用量となった。

【LPガス使用量】 目標値を約8%オーバー

数量で見ると目標値より9kgのオーバーで、これといったはっきりとした原因は不明だが、設備を設置して約20年が経過、劣化が原因と考えられる。

【用水使用量】 目標値を約70%オーバー

ゴーヤの苗を植えてから撤去するまでの間、時期としては水やりを行っている6月～10月の間が特に使用量が増加、これが要因となっている。

【産業廃棄物排出量】 目標値を約30%オーバー

仮設の落石防護柵（延長48m）を設置し作業を行い、作業完了時に防護柵及び基礎材の撤去を行うといった工事現場があり、これに伴い排出されたコンクリート塊の排出、また文化施設（建物）の解体工事を受注、それに伴い排出された廃棄物が多かった事、また、受注（売上高）が直近4年平均の約1. 5倍と増加したことなどが要因となっている。

【産業廃棄物再資源化率】 目標値に約25%及ばず

先に触れたが、文化施設（建物）の解体工事から、再資源化の困難な廃プラスチック、建設混合廃棄物及びガラス・陶磁器くず、といった種類の廃棄物が排出されたことなどが要因となっている。

(2) 過去3年間の実績

令和1年度より基準年度変更

項目	単位	基準年	平成29年度			平成30年度			基準年	令和1年度					
		平成23年度 H23.08-H24.07	H29.08-H30.07		H30.08-R1.07		平成28年度 H28.08-H29.07	R01.08-R02.07							
			目標	実績	達成率及び評価	目標	実績	達成率及び評価	目標	実績	達成率及び評価				
該当決算期の売上高	百万円	1,207	—	1,193	—	—	1,443	—	1,616	—	2,204	—			
CO ₂ 排出量	kg-CO ₂	334,341	304,250	295,825	97.2	○	297,563	254,308	85.5	○	271,850	269,132	212,429	78.9	○
使用した 四国電力の排出係数	kg-CO ₂ /kWh	0.699						0.535							
燃料使用量	ℓ	57,506	52,330	92,261	176.3	×	51,180	77,740	151.9	×	90,148	89,247	66,530	74.5	○
電力使用量	kWh	271,381	246,957	88,484	35.8	○	241,529	83,239	34.5	○	80,257	79,454	89,606	112.8	×
LPガス使用量	kg	222	202	97	48.0	○	198	96	48.6	○	111	110	119	108.1	×
用水使用量	m ³	1,296	1,179	1,331	112.9	×	1,153	1,535	133.1	×	748	741	1,264	170.8	×
一般廃棄物排出量	kg	2,172	1,977	2,500	126.5	×	1,933	2,344	121.3	×	2,750	2,723	2,389	87.8	○
産業廃棄物排出量	t	805	733	730	99.7	○	716	1,772	247.3	×	740	733	969	132.2	×
産業廃棄物再資源化率	%	98.7	99.0	90.6	91.5	×	99.0	95.8	96.8	×	90.5	99.0	74.0	74.7	×
環境美化活動	回	10	10	10	100.0	○	10	10	100.0	○	10	10	14	140.0	○
環境負荷の少ない工事件数	%	100.0	100.0	100.0	100.0	○	100.0	100.0	100.0	○	100.0	100.0	100.0	100.0	○

10. 環境経営目標の達成状況（原単位 売上百万円当り）

（1）本年度実績

項目	単位	基準年	目標	実績	達成率	評価
		平成28年度 H28.08-H29.07	令和1年度 R01.08-R02.07	令和1年度 R01.08-R02.07	(%) ※4	※5
CO ₂ 排出量		168.2	166.5	87.1	52.3	○ ※1
【内訳】 CO ₂ 排出量	(kg-CO ₂ /百万円)			96.4	57.9	○
カーボン・オフセット				-7.7		○ ※2
燃料使用量	(t/百万円)	55.8	55.2	30.2	54.7	○
電力使用量	(kWh/百万円)	49.7	49.2	40.7	82.7	○
LPガス使用量	(kg/百万円)	0.069	0.068	0.054	79.3	○
用水使用量	(m ³ /百万円)	0.463	0.458	0.574	125.2	×
一般廃棄物排出量	(kg/百万円)	1.702	1.685	1.084	64.3	○
産業廃棄物排出量	(t/百万円)	0.458	0.453	0.440	97.0	○
産業廃棄物再資源化率	(%)	90.5	99.0	74.0	74.7	×
環境美化活動	(回)	10	10	14	140.0	○
環境負荷の少ない工事件数	(%)	100.0	100.0	100.0	100.0	○ ※3

※1. 購入電力のCO₂排出量の算出については、電気事業者別のCO₂排出係数（平成30年12月27日公表）の四国電力㈱の調整後排出係数 0.535 (kg-CO₂/kWh) を使用。

※2. カーボン・オフセット制度の利用

※3. 環境負荷の少ない工事件数

- 環境負荷の少ない材料（リサイクル材、県産品等）の使用
- 低騒音、排出ガス対策型重機の使用
- 型枠、工事看板への間伐材の使用
- 水質汚濁の防止 等

*4. 達成率 : 達成率 = (実績値/目標値) × 100 (%)

*5. 評価 : 達成= ○、未達成= × で記載する。

<環境目標未達成理由>

【用水使用量】 目標値を約25%オーバー

ゴーヤの苗を植えてから撤去するまでの間、時期としては水やりを行っている6月～10月の間が特に使用量が増加、これが要因となっている。

【産業廃棄物再資源化率】 目標値に約25%及ばず

文化施設（建物）の解体工事を受注、再資源化の困難な廃プラスチック、建設混合廃棄物及びガラス陶磁器くず、といった種類の廃棄物が排出されたことなどが要因となっている。

(2) 過去3年間の実績（原単位 売上百万円当り）

令和1年度より基準年度変更

項目	単位	基準年	平成29年度			平成30年度			基準年	令和1年度					
		平成23年度 H23.08-H24.07	H29.08-H30.07		H30.08-R1.07		平成28年度 H28.08-H29.07	R01.08-R02.07							
該当決算期の売上高	百万円	1,207	目標	実績	達成率及び評価	目標	実績	達成率及び評価	1,616	目標	実績	達成率及び評価			
CO ₂ 排出量	kg-CO ₂ /百万円	277.0	252.1	248.0	98.4%	○	246.5	176.2	71.5	○	168.2	166.5	96.4	57.9	○
使用した 四国電力の排出係数	kg-CO ₂ /kWh	0.699			0.535						0.535				
燃料使用量	l/百万円	47.6	43.4	77.3	178.4%	×	42.4	53.9	127.1	×	55.8	55.2	30.2	54.7	○
電力使用量	kWh/百万円	224.8	204.6	74.2	36.3%	○	200.1	57.7	28.8	○	49.7	49.2	40.7	82.7	○
LPガス使用量	kg/百万円	0.184	0.167	0.081	48.6%	○	0.164	0.067	40.6	○	0.069	0.068	0.054	79.3	○
用水使用量	m ³ /百万円	1.074	0.977	1.116	114.2%	×	0.956	1.064	111.3	×	0.463	0.458	0.574	125.2	×
一般廃棄物排出量	kg/百万円	1.800	1.638	2.096	128.0%	×	1.602	1.624	101.4	×	1.702	1.685	1.084	64.3	○
産業廃棄物排出量	t/百万円	0.667	0.607	0.612	100.8%	×	0.594	1.228	206.9	×	0.458	0.453	0.440	97.0	○
産業廃棄物再資源化率	%	98.7	99.0	90.6	91.5%	×	99.0	95.8	96.8	×	90.5	99.0	74.0	74.7	×
環境美化活動	回	10	10	10	100.0%	○	10	10	100.0	○	10	10	14	140.0	○
環境負荷の少ない工事件数	%	100.0	100.0	100.0	100.0%	○	100.0	100.0	100.0	○	100.0	100.0	100.0	100.0	○

1.1. 環境活動計画の取組結果とその評価

期間：令和1年8月～令和2年7月

項目	活動内容	取組結果	評価	見直し	
CO ₂ 排出量削減	燃料使用量削減	急発進、急加速の禁止	よく取り組んでいる。	○	今後も継続していく。
		不要なアイドリングの禁止	よく取り組んでいる。	○	今後も継続していく。
		重機による積込みを効率良く行う	段取りを考え、取り組んでいる。	○	今後も継続していく。
		車両点検を定期的に行う（タイヤ空気圧、オイル等）	定期的に修理工場で点検を行っている。	○	今後も継続していく。
		移動経路のプランニング、可能な場合は乗り合わせる等、効率的な移動・稼働をする	自宅から現場の近い者は、本社に寄らず現場に直接出勤している。	○	今後も継続していく。
		長期退室時は消火を行い、不必要なストーブ稼働はしない	よく取り組んでいる。	○	今後も継続していく。
		換気時以外、ストーブ使用時は不必要にドアを開けっ放しにしない	よく取り組んでいる。	○	今後も継続していく。
	電力使用量削減	昼休み・退社時の消灯を徹底する	よく取り組んでいる。	○	今後も継続していく。
		長時間使用しないOA機器は電源を切り、不必要な機器はプラグを抜く	退社時の不必要なPC電源の切り忘れがある。	△	定期的な周知・徹底が必要。
		エアコンの過度な温度設定は控える	注意して行っている。	○	今後も継続していく。
		エアコンフィルターの清掃をする	一部、行っていない。	△	夏前、冬前には行うよう徹底する。
		トイレ・会議室・倉庫・給湯室等の照明は使用時のみ点灯する	時々、使用後に照明の消し忘れがある。	△	気づけば、都度注意をする。
		冷房効果を上げるため、現場事務所上部に寒冷遮を張る	必要な現場事務所は行っている。	○	今後も継続していく。
		冷房効果を上げるため、エアコン室外機の設置箇所などを工夫する	必要な現場事務所は行っている。	○	今後も継続していく。
用水使用量削減（排水量削減）	こまめに蛇口の栓を閉める	よく取り組んでいる。	○	今後も継続していく。	
	漏水箇所を発見したら、早急に改善する	定期的に取り組んでいる。	○	今後も継続していく。	
廃棄物削減	一般廃棄物	文書等で可能なものについては回覧をする	電子メール、LINEアプリを利用している。また、各人が必要な部分をコピーしている。	○	今後も継続していく。
		両面コピー・両面印刷をする	利用可能なものについてはできている。	○	今後も継続していく。
		ミスプリント用紙で、可能なものについては裏面利用をする	メモ用紙、チェック用の書類出力などに利用できている。	○	今後も継続していく。
		使用済み封筒等の再利用をする	社内および現場への書類を渡す時などに、よく利用している。	○	今後も継続していく。
		段ボール・古新聞の再利用をする	修理工場での自動車塗装時のマスキングに古新聞が再利用されている。	○	今後も継続していく。
		資源ごみとして処理をする（学校の廃品回収への提供等）	段ボールは資源ごみとして、業者に回収してもらっている。	○	今後も継続していく。
	産業廃棄物	適正処理をし、可能なものは再使用・再生利用につながる処理をする	よく取り組んでいる。	○	再資源化率を高める努力をする。
マニフェスト管理の徹底	現場によってはスムーズな流れで進まない事があった。	△	講習など、継続的受講させる。		
作業ミスによる排出量の増加をさせない	排出量増加につながる作業ミスはなかった。	○	今後も継続していく。		
環境保全活動の実施	ロードボランティア活動（清掃活動）を実施する	目標回数以上、実施できた。	○	今後も継続していく。	
	各種団体主催の清掃活動への参加	商工会、業界団体などの清掃活動へは積極的に参加できた。	○	継続して取り組む。	
	ゴミの散乱防止	よく取り組んでいる。	○	強風・台風時などは特に注意をすること。	
	事務所・現場・修理工場周辺の清掃・整理整頓をする	社内パトロール時に指摘された現場があった。その都度、是正は行っている。	△	現場においては、事故につながる危険性があるため、再認識が必要。	
化学物質の適正な取り扱い	適正な保管を行い、盗難に遭わないようにする	倉庫などに鍵をかけて保管。紛失・盗難事例なし。	○	今後も継続していく。	
	適正に使用し、近隣等への漏洩防止をする	近隣等への漏洩なし。	○	今後も継続していく。	
	PRTTR制度対象物質の使用量、もしくは購入量の把握	購入量を把握している。	○	今後も継続していく。	
環境負荷の少ない工事の実施	環境負荷の少ない材料（リサイクル材、県産品等）の使用	再生生コン、再生砕石等の使用など、実施されている。	○	今後も継続していく。	
	低騒音、排出ガス対策型重機の使用	各現場で使用されている。	○	今後も継続していく。	
	型枠、工事看板への間伐材の使用	可能な場合、進んで利用されている。	○	今後も継続していく。	
	水質汚濁の防止	各現場で対策が実施され、特に苦情は受けていない。	○	今後も継続していく。	
	チェンソーの潤滑油は生分解性オイルを使用する	実施されている。	○	更なる使用推進に取り組む。	

1 2. 次年度の環境経営目標

(1) 単年度目標

項目	単位	基準年 平成28年度 H28. 08-H29. 07	目標 令和 2年度 R02. 08-R03. 07	備考
CO ₂ 排出量	(kg-CO ₂)	271, 850	266, 413	基準年値より2%削減 ※ 1
燃料使用量	(ℓ)	90, 148	88, 345	基準年値より2%削減
電力使用量	(kWh)	80, 257	78, 652	基準年値より2%削減
LPガス使用量	(kg)	111	109	基準年値より2%削減
用水使用量	(m ³)	748	733	基準年値より2%削減
一般廃棄物排出量	(kg)	2, 750	2, 695	基準年値より2%削減
産業廃棄物排出量	(t)	740	725	基準年値より2%削減
産業廃棄物再資源化率	(%)	90. 5	99. 0	
環境美化活動	(回)	10	10	
環境負荷の少ない工事件数	(%)	100. 0	100. 0	※ 2

※ 1. 購入電力のCO₂排出量の算出については、電気事業者別のCO₂排出係数（平成30年12月27日公表）の四国電力株の調整後排出係数 0. 535 (kg-CO₂/kWh) を使用。

※ 2. 環境負荷の少ない工事件数

- 環境負荷の少ない材料（リサイクル材、県産品等）の使用
- 低騒音、排出ガス対策型重機の使用
- 型枠、工事看板への間伐材の使用
- 水質汚濁の防止 等

(2) 中長期目標

（平成28年 8月～平成29年 7月を基準年とする。）

項目	単位	平成28年度 H28. 08-H29. 07	令和 2年度 R02. 08-R03. 07	令和 3年度 R03. 08-R04. 07	令和 4年度 R04. 08-R05. 07	令和 5年度 R05. 08-R06. 07
		実績（基準年）	基準年値より2%削減	基準年値より3%削減	基準年値より4%削減	基準年値より5%削減
CO ₂ 排出量	(kg-CO ₂)	271, 850	266, 413	263, 695	260, 976	258, 258
燃料使用量	(ℓ)	90, 148	88, 345	87, 444	86, 542	85, 641
電力使用量	(kWh)	80, 257	78, 652	77, 849	77, 047	76, 244
LPガス使用量	(kg)	111	109	108	107	105
用水使用量	(m ³)	748	733	726	718	711
一般廃棄物排出量	(kg)	2, 750	2, 695	2, 668	2, 640	2, 613
産業廃棄物排出量	(t)	740	725	718	710	703
産業廃棄物再資源化率	(%)	90. 5	99. 0	99. 0	99. 0	99. 0
環境美化活動	(回)	10	10	10	10	10
環境負荷の少ない工事件数	(%)	100. 0	100. 0	100. 0	100. 0	100. 0

1 3. 次年度の環境経営目標（原単位 売上百万円当り）

（1）単年度目標

項目		基準年 平成28年度 H28. 08-H29. 07	目標 令和 2年度 R02. 08-R03. 07	備考
CO ₂ 排出量	(kg-CO ₂ /百万円)	168. 2	164. 9	基準年値より2%削減 ※ 1
燃料使用量	(ℓ/百万円)	55. 8	54. 7	基準年値より2%削減
電力使用量	(kWh/百万円)	49. 7	48. 7	基準年値より2%削減
LPガス使用量	(kg/百万円)	0. 069	0. 067	基準年値より2%削減
用水使用量	(m ³ /百万円)	0. 463	0. 454	基準年値より2%削減
一般廃棄物排出量	(kg/百万円)	1. 702	1. 668	基準年値より2%削減
産業廃棄物排出量	(t/百万円)	0. 458	0. 449	基準年値より2%削減
産業廃棄物再資源化率	(%)	90. 5	99. 0	
環境美化活動	(回)	10	10	
環境負荷の少ない工事件数	(%)	100. 0	100. 0	※ 2

※ 1. 購入電力のCO₂排出量の算出については、電気事業者別のCO₂排出係数（平成30年12月27日公表）の四国電力株の調整後排出係数 0. 535 (kg-CO₂/kWh) を使用。

※ 2. 環境負荷の少ない工事件数

- 環境負荷の少ない材料（リサイクル材、県産品等）の使用
- 低騒音、排出ガス対策型重機の使用
- 型枠、工事看板への間伐材の使用
- 水質汚濁の防止 等

（2）中長期目標

（平成28年 8月～平成29年 7月を基準年とする。）

項目	単位	平成28年度 H28. 08-H29. 07 実績（基準年）	令和 2年度 R02. 08-R03. 07 基準年値より2%削減	令和 3年度 R03. 08-R04. 07 基準年値より3%削減	令和 4年度 R04. 08-R05. 07 基準年値より4%削減	令和 5年度 R05. 08-R06. 07 基準年値より5%削減
CO ₂ 排出量	(kg-CO ₂ /百万円)	168. 2	164. 9	163. 2	161. 5	159. 8
燃料使用量	(ℓ/百万円)	55. 8	54. 7	54. 1	53. 6	53. 0
電力使用量	(kWh/百万円)	49. 7	48. 7	48. 2	47. 7	47. 2
LPガス使用量	(kg/百万円)	0. 069	0. 067	0. 067	0. 066	0. 065
用水使用量	(m ³ /百万円)	0. 463	0. 454	0. 449	0. 444	0. 440
一般廃棄物排出量	(kg/百万円)	1. 702	1. 668	1. 651	1. 634	1. 617
産業廃棄物排出量	(t/百万円)	0. 458	0. 449	0. 444	0. 440	0. 435
産業廃棄物再資源化率	(%)	90. 5	99. 0	99. 0	99. 0	99. 0
環境美化活動	(回)	10	10	10	10	10
環境負荷の少ない工事件数	(%)	100. 0	100. 0	100. 0	100. 0	100. 0

1 4. 次年度の環境活動計画の取組内容

期間：令和2年8月～令和3年7月

項目		活動内容	担当者	期間
CO ₂ 排出量削減	燃料使用量削減	急発進、急加速の禁止	各部門長、各現場代理人	R02.08-R03.07
		不要なアイドリングの禁止	各部門長、各現場代理人	//
		重機による積込みを効率良く行う	各部門長、各現場代理人	//
		車両点検を定期的に行う（タイヤ空気圧、オイル等）	各部門長	//
		移動経路のプランニング、可能な場合は乗り合わせる等、効率的な移動・稼働をする	各部門長、各現場代理人	//
		長期退室時は消火を行い、不必要なストーブ稼働はしない	各部門長、各現場代理人	//
		換気時以外、ストーブ使用時は不必要にドアを開けっ放しにしない	各部門長、各現場代理人	//
	電力使用量削減	昼休み・退社時の消灯を徹底する	各部門長、各現場代理人	//
		長時間使用しないOA機器は電源を切り、不必要な機器はプラグを抜く	各部門長、各現場代理人	//
		エアコンの過度な温度設定は控える	各部門長、各現場代理人	//
		エアコンフィルターの清掃をする	各部門長、各現場代理人	//
		トイレ・会議室・倉庫・給湯室等の照明は使用時のみ点灯する	三吉	//
		冷房効果を上げるため、現場事務所上部に寒冷遮を張る	川村、中野、各現場代理人	//
		冷房効果を上げるため、エアコン室外機の設置箇所などを工夫する	川村、中野、各現場代理人	//
用水使用量削減 (排水量削減)		こまめに蛇口の栓を閉める	各部門長、各現場代理人	//
		漏水箇所を発見したら、早急に改善する	各部門長、各現場代理人	//
廃棄物削減	一般廃棄物	文書等で可能なものについては回覧をする	各部門長、各現場代理人	//
		両面コピー・両面印刷をする	各部門長、各現場代理人	//
		ミスプリント用紙で、可能なものについては裏面利用をする	各部門長、各現場代理人	//
		使用済み封筒等の再利用をする	各部門長、各現場代理人	//
		段ボール・古新聞の再利用をする	各部門長、各現場代理人	//
		資源ごみとして処理をする（学校の廃品回収への提供等）	各部門長、各現場代理人	//
	産業廃棄物	適正処理をし、可能なものは再使用・再生利用につながる処理をする	川村、中野、各現場代理人	//
		マニフェスト管理の徹底	各部門長	//
		作業ミスによる排出量の増加をさせない	川村、中野、各現場代理人	//
環境保全活動の実施		ロードボランティア活動（清掃活動）を実施する	三吉	//
		各種団体主催の清掃活動への参加	各部門長	//
		ゴミの散乱防止	各部門長、各現場代理人	//
		事務所・現場・修理工場周辺の清掃・整理整頓をする	各部門長、各現場代理人	//
化学物資の適正な取り扱い		適正な保管を行い、盗難に遭わないようにする	各部門長、各現場代理人	//
		適正に使用し、近隣等への漏洩防止をする	各部門長、各現場代理人	//
		P R T R制度対象物質の使用量、もしくは購入量の把握	各部門長、各現場代理人	//
環境負荷の少ない工事の実施		環境負荷の少ない材料（リサイクル材、県産品等）の使用	各部門長、各現場代理人	//
		低騒音、排出ガス対策型重機の使用	各部門長、各現場代理人	//
		型枠、工事看板への間伐材の使用	各部門長、各現場代理人	//
		水質汚濁の防止	川村、中野、各現場代理人	//
		チェーンソーの潤滑油は生分解性オイルを使用する	川村、各現場代理人	//

15. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無

(1) 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果

主な適用法規	規制内容	実施内容	点検頻度 測定時期	担当者	遵守 状況	確認日
廃棄物の処理及び清掃に関する法律 (廃棄物処理法) 第12条 第12条の2 第12条の3	産業廃棄物の委託処理 特別管理産業廃棄物に係る処理 (水銀使用製品産業廃棄物を含む。)	◎ 委託契約の締結、許可確認	都度 8月 1回/年 6月 該当時	三吉 規文 川村 尊章	遵守	令和2年9月4日
		◎ マニフェストの交付、回収、照合				令和2年4月21日
		◎ 運搬車両へ、産業廃棄物を収集運搬している旨の表示 ◎ マニフェスト交付状況報告書作成・報告 ◎ 多量排出事業者(年間1,000t以上)に該当した場合、 処理計画書および処理計画実施状況報告書の提出				令和2年8月3日
建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律 (建設リサイクル法) 第12条	解体工事80㎡以上、 新築・増築工事500㎡以上、 修繕・模様替工事1億円以上、 その他の工作物に関する工事 (土木工事等)500万円以上	◎ 発注者への書面による計画等説明 (分別解体等、再資源化等の促進、再生資源の使用)	各工事毎 8月	三吉 規文	遵守	令和2年9月4日
特定特殊自動車排出ガスの規制等に関する法律 (オフロード法) 第4条の2	特定特殊自動車排出ガスによる 大気汚染の防止	◎ 基準適合機械の使用(平成18年10月以降に製作されている建設機械等については基準適合表示等の貼つてあるものを使用)	1回/年 8月	川村 尊章	遵守	令和2年8月31日
騒音規制法 第14条	杭打機、びょう打機、削岩機、 空気圧縮機等を使用する作業	◎ 特定建設作業の届出、作業敷地境界にて 85デシベル以下	1回/年 8月	川村 尊章	遵守	令和2年8月31日
振動規制法 第14条	杭打機、杭拔機、プレーカー、 舗装版破砕機を使用する作業	◎ 特定建設作業の届出、作業敷地境界にて 75デシベル以下	1回/年 8月	川村 尊章	遵守	令和2年8月31日
建築基準法 第28条の2	石綿その他の物質の飛散又は 発散に対する衛生上の措置	◎ 建築材料に石綿を添加しない。 ◎ 石綿をあらかじめ添加した建築材料を使用しない ◎ 居室を有する建築物で、クロロビリホス及びホルムアルデヒドを含む建築材料を使用する場合においては、 建築基準法施行令で定める技術的基準に適合するものとする	各工事毎 8月	中野 量方	遵守	令和2年9月11日
四万十川の保全及び流域の振興に関する基本条例 (四万十川条例) 第7条 第13条 第14条	流域内において行う事業活動 に関し、四万十川の保全及び 流域の振興に努める	◎ 指定地域内での土地の形状変更、建築物の新築その他、 制限等のある行為を行う場合には、知事の許可を受けなければならない	1回/年 8月	三吉 規文	遵守	令和2年9月4日
浄化槽法 第10条 第11条	保守点検、清掃	◎ 2ヶ月毎に登録業者に保守点検を委託する ◎ 年に一回以上の清掃を清掃業者に委託する ◎ 年に一度、法定検査を受ける	6回/年 8月	三吉 規文	遵守	令和2年7月29日
使用済自動車の再資源化等に関する法律 (自動車リサイクル法) 第42条	廃棄車両の引き渡し	◎ 自治体に登録・許可された業者への廃棄車両の引き渡しを行う	1回/年 8月	川村 尊章	遵守	令和2年8月31日
国等による環境物品等の調達の推進等に関する法律 (グリーン購入法) 第5条	物品の購入・借受、役務の提供を受ける場合、 できる限り環境物品等の選択に努める	◎ 可能な限り、グリーン商品を選択し購入する	1回/年 8月	三吉 規文	遵守	令和2年9月4日
フロン類の使用の合理化及び管理の適正化に関する法律 (フロン排出抑制法) 第16条	簡易点検を実施することで、 フロン類の漏えい兆候を発見し、 漏えいを最小限にすることを目的とする	◎ 四半期ごとに一回、対象機器の簡易点検を行う	4回/年 8月	三吉 規文	遵守	令和2年9月3日
大気汚染防止法 第18条の17 第18条の18	粉じんの規制 特定工事	◎ 解体等工事実施前の特定工事に該当するか否かの調査と報告 ◎ 解体等工事施工時に調査結果を掲示板に掲示 ◎ 特定工事施工時には作業基準を遵守	各工事毎 8月	川村 尊章	遵守	令和2年8月31日
特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律 (PRTR法) 第2条 第5条	第一種指定化学物質等取扱事業者 排出量及び移動量の把握・届出	【対象業種】 ◎ 自動車整備業が含まれる 【従業員数】 ◎ 常用雇用者21人以上 【取扱量】 ◎ 第一種指定化学物質年間取扱量1t未満のため非該当 ◎ 特定第一種指定化学物質の取扱いがないため非該当 ◎ 届出必要なし	該当時	川村 尊章	—	—

(2) 環境関連法規等の違反、訴訟等の有無

令和1年8月より令和2年7月まで、環境関連法規等への違反、訴訟及び外部からの苦情・要望等はありませんでした。

16. 代表者による全体評価と見直しの結果

【全体評価】

エコアクション21ガイドラインに基づき認証を受け、活動を外部に公表することにより社会的信頼を得ることができ、公共工事の発注者及び取引先からの信頼性が向上しています。これは企業としての社会的責任の一環となっており、地球規模で問題となっている二酸化炭素（CO₂）排出量の削減に、弊社も微力ではあるが貢献が出来ているものと考えています。

使用する建設機械はすべて排出ガス対策機械を使用し、発生する廃棄物の再資源化には現場の作業員まで周知し、廃棄物の再資源化と共に、現場での発生品の再利用を進めているところであります。

今後も循環型社会を進めるにあたり様々な工夫を凝らし、知恵を絞り二酸化炭素（CO₂）排出量の削減に向け取り組んでいきます。

その一環として弊社としてもSDGsを支援していきます。17の大きな目標どれもが大事ではありますが、私どもとしては、持続可能な社会の実現に向けて地球環境に配慮した建設会社、及び地域社会とともに発展していくことを目指しています。これらは経営上、身近な問題として、取り組める問題から真摯に取り組んでいかなければと考えております。

以上のことから、全員へ環境活動への意識が定着して、二酸化炭素（CO₂）排出の減量化、資材の再利用率の増加に向けて取り組んでますので、エコアクション21は環境経営システムとして有効に機能していると判断できます。

【見直しの結果】

環境経営方針、環境経営目標、環境活動計画、環境経営実施体制の変更の必要性なし。

【指示事項】

- ・次年度、該当させられる工事現場があれば、積極的にカーボン・オフセットを実施する事。
- ・新型コロナウイルス感染拡大防止を最優先に、冷暖房を使用する時は窓は閉め切らず、換気を十分に行うようにする事。
- ・健康管理には十分に気を付けよう。

令和 2 年 11 月 20 日

豚座建設株式会社
代表取締役 佐田 憲昭